

日本キャリア教育学会

令和3年度中部地区部会第1回研究会実施報告

主催 中部地区部会

2022年01月30日(日)13:30~16:00, オンラインによる中部地区部会第1回研究会が開催されました。今回のテーマは、「After COVID-19におけるキャリア教育を考える ～学校現場の視点から～」で、23名(話題提供者・コーディネーター含)の方にご参加いただきました。

中部地区部会代表の山田智之(上越教育大学)の挨拶に続き、村瀬悟(みよし市立三好中学校)先生より、With COVID-19の中、中学校現場で取られた様々な事例をお話していただきました。その中でも当該中学校の卒業生である大学生が、大学での学びを後輩に伝える「みよちゅー大学」という取り組みは、異年齢交流とICTを活用した興味深い取り組みでした。また、ICTを活用したキャリアパスポート事例としてお話いただいた「往還カルテ」は、生徒と教員、保護者の視点を考慮したキャリアパスポートの有効活用事例として目を見張るものがありました。つづいて、鈴木映司(静岡県立沼津東高等学校)先生より、総合的な探究の時間「揺籃(ようらん)」の取り組みについて、様々な事例をお話していただきました。特に、総合的な探究の時間「揺籃(ようらん)」の取り組みの効果を質的に分析し、指導の工夫を図られている点や、「調べ学習」と「研究」の違いを明確に示し、探究活動を進められている点は興味深いものがありました。また、進路指導を展開する上で Savickas のキャリア構築理論を基軸としつつ、ナラティブなアプローチを大切に一人一人に寄り添った指導をされていることには大きな感銘を受けました。そして、田中哲也(長岡市立関原中学校 校長)先生より、学校経営的な視点から、キャリア教育の取り組みについてお話していただきました。その中で、職場体験や職場見学、上級学校訪問などの取り組みを直接的なキャリア教育、学びと生活、社会、職業とのつながりや基礎的・汎用的能力を育む日常の教科指導等を間接的なキャリア教育、あいさつや身だしなみ、言葉遣い等の日常の学校生活・社会生活のルールやマナーの指導等を、日常的キャリア教育と整理され、学校の教育活動全体で行うキャリア教育をわかりやすく示されている点に、非常に大きな感銘を受けました。そして、キャリア教育の視点からの授業改善やICTの活用など、学校経営と教育実践のむすびつきについて、事例を交えながらお話していただきました。

その後のトークセッションでは、参加者の方々とともに「After COVID-19におけるキャリア教育を考える ～学校現場の視点から～」について、活発な意見交換が進められました。最後に副会長の高綱睦美(愛知教育大学)先生から閉会挨拶をいただき、中部地区部会第1回研究会を盛会のうちに終了することができました。

参加者のアンケートには、「新しい取り組みの継続について、鈴木先生や田中先生のご意見で、必ずしもそのままで行かなくても、時代とともに変わってもいいと考えられて

いることがわかり、参考になりました。」「広範な接続に取り組まれている三好中学校の村瀬先生、自己理解の意味を深められている鈴木先生、キャリアパスポート活用の王道を実践された田中先生いずれも価値高い取り組みと感じました。」「大変先進的な取組を拝聴させて頂き、とても勉強になりました。」「最先端の実践を伺い、今後の目指す方向についてヒントをいただくことができました。」「中学校や高校の先生方のキャリア教育に対する取り組みや考え方というものが分かり勉強になりました。生徒同士の交流だけでなく異学年との交流を通じて生徒の成長に繋げるキャリア教育というものが非常に大切であり、それを繋げるためにも今のオンラインという環境はある種の利点もあると感じました。しかしそこには先生からのインターネットの使い方の練習や繋げる立場としての活動も大切になると思いました。」「キャリア教育におきまして、突然のコロナ禍および、その影響により計画より5年前倒しとなりました GIGA スクール構想の面の奮闘ぶりのご様子をお伺いし、とても参考となりました。特に、3名の先生方のお話は、とても現場目線で生徒と先生方の様子や反応をリアルに伝わるお話であったと思います。初等・中等教育におけるキャリア教育の大きな課題の一つが、キャリア教育の学校組織の在り方であると本日のお話を通し、改めて感じました。」とあり、今後の研究会を検討する上で、多くの示唆をいただきました。

ご発表並びにご参集いただきました皆様に深く感謝申し上げます。

山田智之(中部地区部会代表・上越教育大学)